

【資料】

がん看護領域の口腔ケアに関する国内の近年の動向と考察

Recent Trends and Examinations in Oral Care in the Oncological Nursing Field in Japan

村田節子¹⁾ 末永陽子¹⁾ 紙谷恵子²⁾ 秋永和之¹⁾ 内田荘平¹⁾

1) 福岡看護大学 看護学部 看護学科 健康支援看護部門、2) 山口大学 医学部 保健学科

抄 録

本研究の目的は、看護領域における口腔ケアに焦点を当てた文献を抽出し、その中から国内のがん看護領域の口腔ケアに着目して、近年の動向を確認するとともにがん看護領域の口腔ケアの特徴について考察することである。

今回検討する文献は国内文献のみとした。医学中央雑誌 WEB 版 ver.5 を用いて「口腔ケア」をキーワードとして 2013 ～ 2018 年 7 月迄にトピックスを扱ったと考えられる「解説/特集」・「図説・特集」・「Q&A /特集」を検索条件とした。調査から掲載まで期間を要す原著論文は除外した。抽出された文献 576 件の中からがん看護に関連した 59 件を分析対象とした。対象文献でトピックスとして取りあげられた「項目」と検討された「内容」について分類し、がん看護分野の口腔ケアの特徴について考察した。

トピックスとなった「項目」は 59 件中 49 件が治療に関連したものであり、特に化学療法に関するものが多かった。取り上げられている「内容」別に見てみると、がん化学療法や放射線療法に伴う有害事象が中心であり、最も多かったものは口内炎や口腔粘膜炎に関してであった。

がんの治療では周術期の口腔内細菌による術後肺炎や創部感染よりも、がん化学療法や放射線療法に伴う口内炎や口腔粘膜炎などの有害事象への対処に関しての口腔ケアに看護の関心が高く、トピックスとして取り上げられる主な要因と考えた。

キーワード: 口腔ケア, トピックス, がん看護

緒 言

外科手術後の合併症の予防や早期回復のために「周術期口腔機能管理」が 2012 年に歯科診療保険に導入され、一定の評価を受けた¹⁾。看護領域でも従来清潔ケアの一部として認識されていた口腔ケアが、全身の健康の維持・増進に影響することが明らかとなり、国内では看護の様々な領域で関心が高まっている。

がんの領域では、2012 年のがん対策推進基本計画（第 2 期）に、医科歯科連携による口腔

ケアの推進がうたわれた²⁾。以来周術期口腔機能管理の適応は、対象の手術範囲が拡大するだけでなく、がん化学療法や放射線療法を受ける対象者の QOL にも影響することから、術後の追加治療としてのがん化学療法や放射線療法への対策としても拡大されている。当然がん看護領域でも有害事象への対策、回復の促進、更に QOL の向上といった観点からの口腔ケアが重要となってきていることがうかがわれる。

そこで、近年のがん看護領域で取り上げられ

ている口腔ケアの文献の動向を概観することによって、がん看護領域における口腔ケアの特徴をまとめ今後の展望について検討する。

研究方法

本研究では、国内の看護領域における口腔ケアに焦点を当てた文献について医学中央雑誌 Web ver. 5（以下医中誌）を使用した。文献検索方法は、収載誌発行年を 2013 年から 2018 年（7 月）とし、看護の文献で、キーワードは「口腔ケア」とした。看護領域の口腔ケアの動向を検討するために、関心の高さや現状が早期に反映されるトピックスとして「解説/特集」・「図説・特集」・「Q&A/特集」を抽出対象とした。調査から掲載までの期間を要する原著論文は除外した。分析方法は、抽出された文献について、研究タイトル・雑誌名・論文種類・キーワードなどを要約するシートを作成し、文献が収録されている雑誌と論文タイトル及びキーワードを主体として、トピックスとなる概念を抽出して分類した。雑誌名とタイトルではトピックスとなる概念の抽出が困難なものはシソーラスのキーワードを参考とした。その中から、更にごがん看護領域のケアに関する文献を抽出し、①どのような「項目」がトピックスとして取り扱われているか、②項目の中で検討された「内容」は何かについて検討を行った。

分類にあたっては、再現性の確保のために雑誌発行年ごとに研究者 2 名で分類を行った。また、信頼性と妥当性の確保のために、研究者間で意見が一致するまで討論を重ねた。

倫理的配慮としては、本研究はヒトを対象とする研究ではなく文献が対象であるため、倫理審査を受審していない。文献の抽出及び整理・検討にあたっては著作権を侵害しないように留意し、特定の文献に偏らないこと、著者の意図を損なわないように忠実に抽出し、整理・検討し、分析を行った。

結 果

検索条件で抽出された文献は 576 件であった。そのうち、がん看護領域の文献は 61 件であった。がん看護のケアに関する文献の割合は抽出された文献全体の 10.5 % であり最も多かった。そのうち、がん看護の組織管理に関する 2 文献を除いた 59 件を今回の分析対象とした。

がん看護領域の口腔ケアの近年の動向を検討するにあたって取り上げられているトピックスとなった「項目」とその項目の中で取り上げられている「内容」に分類して特徴を検討した。

1. トピックスとなった「項目」

分析対象となった文献 59 件のうち、トピックスとなった項目は治療法に関連するものが 41 件(69.5 %)と最も多かった。項目の内訳は、化学療法 24 件、がんの支持療法 5 件、放射線療法 4 件、手術療法 3 件、化学放射線療法(CRT) 1 件、その他 4 件であった。

次に多かった項目は、緩和ケア・終末期に関連するものであり 9 件であった。また、疾患別ケア、年代別ケア、看護師の役割、その他がそれぞれ 2 件であった。その他で取り上げられた項目はオンコロジー・エマージェンシー及び薬剤関連顎骨壊死であった。エンゼルケアに関するものが 1 件あった（図 1）。

2. トピックスとなった項目で検討された「内容」

それぞれの項目で検討された内容は、1 つの文献に複数とりあげられているものもあり、83 件抽出された。その中で、最も多かったのは治療の有害事象に関するもので 52 件(62.6 %)であった。有害事象の内訳は口内炎及び口腔粘膜炎症 23 件、味覚障害 9 件、口腔内乾燥（唾液減少）症 8 件、食欲不振 6 件、薬剤関連顎骨壊死 3 件、吐気・嘔吐 2 件、その他 1 件であった。

次に多かったのは看護介入の内容であり 14 件であった。看護介入のうち 10 件は栄養管理に関するものであった。その次に多かった内容は、易感染による症状（カンジダ症、肺炎など）とその管理、その他がそれぞれ 7 件であった。

また、二次障害（声帯麻痺、嚥下障害など）に関するものが3件であった（図2）。

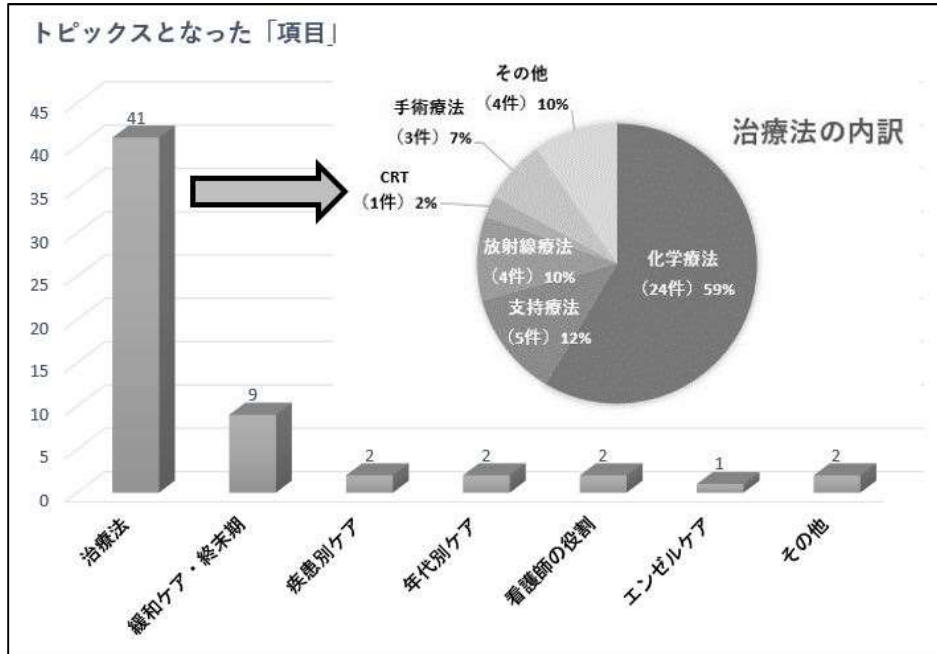


図1: トピックスとなった「項目」

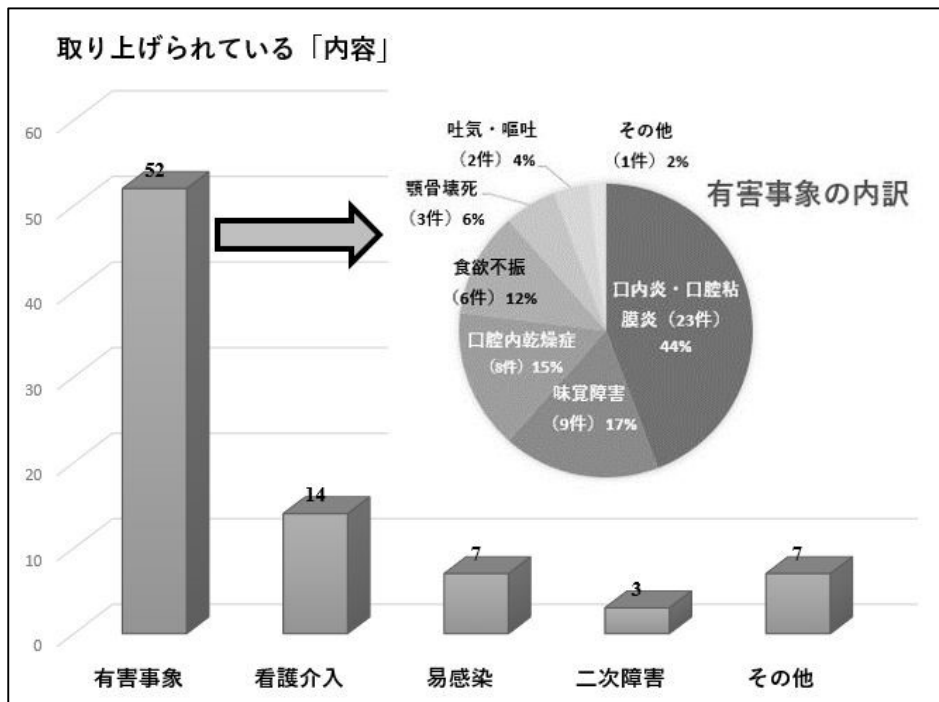


図2: 取り上げられている「内容」

考 察

今回我々は、がん看護領域の口腔ケアに関する動向を概観した。その結果分析対象とした文献59件のうちトピックスとなった「項目」で最も多かったのががんの治療法に関するもの41件であった。内訳は手術に関するものが3件であり、それ以外は化学療法や放射線療法やその

支持療法であった。この背景には、近年のがん医療の進歩によって治療法の選択肢が広がったことや、1981年以来我が国の死因の第一位であるがんに対し2006年に施行されたがん対策基本法を基盤とした国策としてのがん対策が進められたことが考えられる。がんはかつて死を意味する病と捉えられていたが³⁾、治療法の

進歩によって現在は慢性病としてがんと付き合いながら社会復帰するがんサバイバーと呼ばれる人たちが増加している⁴⁾。そのような中で2012年からの第二期がん対策基本計画²⁾で「医科歯科連携による口腔ケアの推進」が提唱された。これは、がん治療において劣悪な口腔環境が様々な合併症を引き起こし治療効果の低下や対象者のQOLを低下させること、ひいては入院期間の延長に伴う医療費の高騰を招くことが明確になってきたからである^{5)・6)}。同じく2012年の診療報酬改定において周術期口腔機能管理が保険導入されたことで¹⁾、口腔ケアの重要性の再認識に繋がりがん患者に対する口腔機能管理・口腔ケアの後押しとなった。

当初の保険導入目的は主に口腔機能管理による全身麻酔での周術期のトラブル防止であった⁷⁾。例えば肺がんや頭頸部のがんの手術では、術後の肺合併症の発生頻度が高いことが知られており⁸⁾、呼吸器合併症を予防するような術後管理が特に必要である。これに加え2018年の診療報酬改定⁹⁾では「周術期等口腔機能管理」と名称を変更し、手術の種類だけでなく治療方法に関しても適応範囲が拡大された。中でも「放射線療法や化学療法による口腔粘膜炎に対する専門的口腔衛生処置の新設」によってがんの支持療法に対しても適応範囲となった。

近年のがん医療では手術前後に化学療法や放射線療法を組み合わせた集学的な治療が行われることが多い。有害事象を抑え化学療法や放射線療法をいかに円滑に終了させるかが、がん医療の大きなポイントの一つでありさらに関心が高まったことが考えられる。このことは今回の我々の研究でトピックスとなった項目で取り上げられている「内容」が、がん化学療法や放射線療法に伴う有害事象が中心であり、最も多かったのは口内炎や口腔粘膜炎に関するものであったことからもうかがわれる。

口内炎や口腔粘膜炎はがん化学療法や化学放射線療法(CRT)及び頭頸部の放射線療法では発生頻度の高い有害事象である。口内炎や口

腔粘膜は疼痛を伴うことが多く栄養摂取を妨げる。しかも、重症化予防に関して確立された方法がない¹⁰⁾。適切に口腔衛生が行われなければ潰瘍化を起こすなどして二次感染を招き口内炎や口腔粘膜炎が悪化するという負の連鎖が起こる。このような状態は治療の休止や中止につながり、治療効果を妨げ最終的に対象者のwell-beingを障害しQOLを著しく低下させる。取り上げられた「内容」で2番目に多かった看護介入14件中では栄養管理に関する内容が10件を占めていた。これは、治療継続のためにも栄養状態を整える必要性が高まっているにもかかわらず口内炎などの疼痛で経口摂取が困難になり栄養低下を招くことが要因と考えられた。その他に取り上げられていた味覚障害、口腔内乾燥(唾液減少)、食欲不振等の症状もがん化学療法や放射線療法による有害事象であり、栄養摂取低下を招く症状である。

以上のことから、近年のがん看護領域では周術期の口腔内細菌による術後肺炎や創部感染よりも、がん化学療法や放射線療法に伴う有害事象への対処としての口腔ケアに関心が高いことが特徴と考えられる。特に疼痛を伴い栄養摂取を妨げる口内炎や口腔粘膜炎を予防・重症化予防することが中心であった。また栄養摂取を妨げるその他の有害事象の対処を行い、少しでも円滑に治療が遂行されることに看護の関心が高いと考えられトピックスとして取り上げられた頻度が高かったと考えられた。

口腔ケアの重要性は看護領域でも従来から述べられてきた。しかしこれまでの我々の研究で看護教育の中では、十分な教育やトレーニングが行われていなかったことが示唆されている¹¹⁾。その結果、看護師の口腔ケアに関する知識や技術が蓄積されておらず、看護のアセスメントの視点や適切なスクリーニングの方法の確立が不十分であると考えられる。特に口内炎や口腔粘膜炎への対処は単に感染予防を目的とした口腔清掃方法の確立だけでは不十分である。観察・モニタリングに関して医師や歯科

医師・歯科衛生士と連携してアセスメントを行い、看護ケアの方法を確立していくことが重要である。さらに今日、がん化学療法や放射線療法は外来治療、特に化学療法では内服薬による在宅療法へと治療の場が変化している。従ってがん看護領域では今後、対象者自身のセルフモニタリング、セルフマネジメントに関する指導やケアの開発が今後の課題として重要になると考えられる。

結 語

1. 近年のがん看護領域でトピックスとなっている口腔ケアの特徴

がん看護領域では周術期の口腔内細菌による術後肺炎や創部感染よりも、がん化学療法や放射線療法による疼痛を伴い栄養摂取を妨げる口内炎や口腔粘膜炎、また栄養摂取を妨げるその他の有害事象への対処が中心であった。これは少しでも円滑に治療が遂行されることに看護の関心が高いと考えられトピックスとして取り上げられた頻度が高かったと考えられた。

2. がん看護領域での口腔ケアに関する示唆と課題

がん医療は今日、入院治療から外来治療へと治療の場が変化しており、がん看護領域では外来や在宅での対象者自身のセルフモニタリング、セルフマネジメントに関する指導やケアの開発が重要になると考えられる。そのため観察・モニタリングに関して医師や歯科医師・歯科衛生士と連携してアセスメントや看護ケア方法を確立していくことが今後の課題である。

本研究の一部は、日本がん看護学会、第33回学術集会において発表した。

利益相反

本研究に於いてすべての著者に開示すべき利益相反事項はない。

引用文献

- 1) 厚生労働省 (2012):平成 24 年度診療報酬改定の概要, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000197979.pdf> (2019.2.20)
- 2) 厚生労働省(2012):がん対策推進基本計画(第2期), <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunituite/bunya/0000183313.html> (2019.1.30)
- 3) 福岡欣治:ガンということばの社会的意味, ガン患者ケアのための心理学 実践的サイコロジ, 浅野茂雄, 谷憲三朗, 大木桃代(編), 226, 真興交易医書出版部, 東京. 22-31, 1997
- 4) 嶺岸秀子, 高木真理, 池田牧:がんサバイバーシップ がんと共に生きる人々への看護ケア, 近藤まゆみ, 嶺岸秀子(編), 医歯薬出版株式会社, 東京. 1-12, 2009
- 5) 田中彰:がん患者における口腔機能管理の重要性, 明倫短期大学紀要, 16 (1), 3-9, 2013
- 6) 太田洋二郎:口腔機能管理 1 周術期口腔機能管理を正しく理解する, 日本歯科医師会雑誌, 65 (9), 1122-1123, 2012
- 7) 岸本裕充:第 34 回日本歯科薬物療法学会学術大会シンポジウム「周術期口腔機能管理における薬物療法の役割, 1. 手術後合併症を低減させるための周術期オーラルマネジメント, 歯科薬物療法, 33 (3), 143-148, 2014
- 8) 梶原稜, 山田慎一, 西牧史洋 他:肺がん術後肺炎に対する周術期口腔管理の有効性に関する後ろ向き観察研究, 信州医誌, 66 (4), 249- 256, 2018
- 9) 厚生労働省 (2018):平成 30 年度診療報酬改定の概要, <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411.html> (2019.2.20)
- 10) 五月女さき子, 船原まどか, 川下由美子 他:頭頸部がん放射線治療時の口腔粘膜炎に関するマネジメント, 口腔衛生会誌, 68, 190-

197, 2018

11) 末永陽子,村田節子,紙谷恵子 他:看護領域

における口腔ケアをトピックスとした文献
の動向,看護と口腔医療,2(1),10-15,2018

Recent Trends and Examinations in Oral Care in the Oncological Nursing Field in Japan

Setsuko Murata¹⁾, Yoko Suenaga¹⁾, Keiko Kamitani²⁾, Kazuyuki Akinaga¹⁾, Sohei Uchida¹⁾

1)Fukuoka Nursing College, Faculty of Nursing Department of Nursing, Division of Support Nursing, 2)Yamaguchi University Faculty of Medicine and Health Sciences

Key Words : oral care, topics, cancer nursing

The purpose of this study was to extract literature that focused on oral care in the nursing field, as well as to focus, among these studies, on oral care in the oncological nursing field to identify recent trends and discuss the characteristics of such care.

Only Japanese literature was examined in this study. Using the online version of the Medical Center Journal, Version 5, the search conditions used were as follows: “oral care” was used as a keyword, as well as “commentary/features,” “diagrams/features,” and “Q&A/features” that were believed to have discussed it as a topic. Original papers that required some time from research to publishing and were published between 2013 and July 2018 were excluded. Of the 576 documents extracted, 59 relating to oncological nursing were analyzed. “Items” that involved treatment in oral care in oncological nursing as a topic in the target literature and the “contents” examined were classified in order to examine the features of oral care in the oncological nursing field.

Of the 59 articles on the topic, 41 were treatment-related, with chemotherapy being the most. Regarding the topics discussed, adverse events associated with cancer chemotherapy and radiation therapy dominated the sample, with stomatitis oral mucositis being the most common.

In the treatment of cancer, we found the important nursing care used for oral care in dealing with adverse events such as stomatitis and oral mucositis associated with cancer chemotherapy and radiation therapy, rather than postoperative pneumonia and wound infection due to oral bacteria in the perioperative period. Thus we can suggest that the strict nursing care might be a main factor that was taken up as topics.